



鳥羽市は「自ら学び心豊かにたくましく生きようとする人間の育成」を目標としています。

とばし教育委員会だより

2019.1.1 第15号



「よしよ！」 にぎやかにもちつき大会！

12月15日、安楽島地区少年育成会もちつき大会が安楽島小学校で開催され、親子連れなど約50人が参加しました。子どもたちは、スタッフの方々が薪で蒸したもち米を一生懸命ついていました。低年齢の子どもたちには杵が重たく、真っ直ぐ餅に当たらず苦戦する姿も見られましたが、上級生は重たい杵を力強くふりかざし餅をついていました。つきたでの餅は、きな粉、あんこ、海苔巻きにして参加者に振る舞われました。

地域の歴史や魅力、ひとに触れるとばっこ！

平成30年度から鳥羽歴史学習本「とばっこ探偵団」を市内小学4年生から6年生へ配布し、そして今後各校で実施を予定している「とばっこ検定」に向けて郷土学習を進めています。郷土学習の具体的な取り組みについてご紹介します。



【郷土学習出前講座の実施】



教育委員会では、希望する学校へ外部講師を派遣して授業を行う郷土学習出前講座を実施しています。郷土学習の授業のテーマはとばっこ探偵団の学習分野に合わせて「御木本幸吉と真珠」「海女」「鳥羽城と九鬼嘉隆」を設定しています(他テーマあり)。今年度4年生を対象として開始する郷土学習の検定である「とばっこ検定」の出題分野を「御木本幸吉と真珠」と設定しています。講師としてミキモト真珠島真珠博物館の松月清郎館長に依頼し、授業を行っています。出前授業の主な内容をご紹介します。

様々な貝からとれる真珠の標本

実は真珠はアコヤ貝からだけではなく、牡蠣やアワビなどほかの貝からも真珠がとれます。また、天然真珠がどのようなものであったか実物を見て、触れて学習します。



触ってわかる真珠の魅力

本物の真珠のネックレスに触れて、真珠の質感や輝き、魅力を感じます。真珠に触れると自然と児童の目が輝きます。



御木本幸吉の生涯を紹介したアニメDVD「夢チャレンジ」

御木本幸吉が養殖真珠の成功までの軌跡をわかりやすくまとめたアニメで楽しく児童に伝えます。



真珠選別体験

真珠にもブルーやピンク、ゴールドなど様々な色があります。実際に真珠を使用し、選別作業を体験します。みんな興味津々で目を真珠のように丸くして取り組んでいます。



とばっこ検定へ向けて

とばっこ探偵団の冊子をよりわかりやすく理解するためにとばっこ検定で問題として出題される基となるドリルを作成しています。問題の一部をご紹介します。みなさんぜひ問題を解いてみてください(実際ドリルには選択肢あり)。



問① 御木本幸吉の実家は何屋さんだったのでしょうか？



問② 御木本幸吉は23歳の時に結婚しました。妻の名前はなんといいますか？

問③ 初めて真珠養殖に成功したのは、いつのことでしょうか？

問④ 御木本幸吉は、伊勢志摩の美しい景色を愛し、公園として保存されることを願っていました。その願いが実現し、戦後すぐの1946(昭和21)年に指定された公園の名前はなんといいますか？

問題答え 問①うどん屋さん 問②うめ 問③1893年 問④伊勢志摩国立公園



「鳥羽が好き ふるさと給食」を実施します！

1月11日(金)に「鳥羽が好き ふるさと給食」を実施します。今回は、鳥羽市内でとれたり、製造された伊勢エビ、アオサ、今浦みそ(以上、伊勢エビ汁)、もち米(赤飯)、みかんを使った給食となります。

鳥羽商船高等専門学校の紹介



はやし ゆうじ
林 祐司さん
平成29年4月に鳥羽商船高等専門学校23代校長に就任。1978年9月神戸商船大学をご卒業後、株式会社商船三井での勤務を経て神戸商船大学、神戸大学大学院などで教鞭をとられる。船舶職員、水先人の養成に力を注がれてきた。

①本校の歴史と学生規模

137年前に鳥羽商船学校として設立され、51年前に国立高等専門学校に昇格し、高等教育機関として今日に至っており、多くの人材を海運界や全国・地元産業界に輩出しています。

学科は、船舶職員養成を主目的とした商船学科（5年6月制。定員40人。航海・機関コースがあります。）と工業系学科の情報機械システム工学科（5年制。定員80人）の1学年2学科定員120人の学校です。また、本科卒業後専攻科（2年制。定員12人）が設置されており、学士の学位の取得が可能です。

②きめ細やかな教育体制と内容

総数680人の学生に対して、51人の専任教員と47人の専任職員が配置され、学生7人に1人の教職員が勉学・生活の指導・支援をしています。本科卒業後は前述の就職のほか、約2割は

学生が国立大学3年生に編入し、専攻科修了後には国立大学大学院に進学しています。

入学直後の半年間は、学科横断でプログラミングを中心とした情報教育を集中的に実施し、論理的思考力を養っています。また、情報機械システム工学科では、学年縦断の課題解決型学習を行っており、地元産業に密着した課題を抽出して、その解決策を各学年混成の少人数チームで提案しています。

③教育の成果

今年度の全国高専プログラミングコンテスト課題部門では、3年連続最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞しており、世界最大のITコンテスト（マイクロソフト社主催）であるImagine Cup 2018世界大会に東京大学の2チームとともに本校チームが出場しました。

3校合同
修学旅行

交流を通して
育つ子どもたち

神島小学校・鏡浦小学校・菅島小学校は、平成26年度から3校交流学習を実施しています。5年生の社会見学と6年生の修学旅行です。

事前に菅島小学校で「交流会・結団式」をしました。ランチルームで一緒に給食を食べ、教室へ。自己紹介をしてから、当日行動を共にするグループに分かれて、めあてを決めたり、約束を確認したりして、あつという間に時間は過ぎていきました。お互いに最初は緊張気味でしたが、別れる時には名残惜しそうにしている様子も見られました。

9月26日(水)・27日(木)、「待ちに待った」修学旅行に行ってきました。3校6年生12人、ドキドキしながらも、いい雰囲気が出発し、バスの中では班別出し物も楽しみました。1日目は京都。清水寺、金閣寺、平和ミュージアムなどを巡り、夜は京都タワーと京都駅の夜景を楽しみました。旅館では、大広間でみんなでおいしい夕食。お風呂に班ごとに入り、各部屋で楽しく過ごしました。就寝時刻もきちんと守り、朝の目覚めもよかったです。家族と離れ友だちと寝食を共にするという貴重な経験が



できたと思います。2日目は奈良。東大寺、法隆寺などを巡りました。野生のシカに驚いたり、しかせんべいをあげたりしました。集合時刻や約束をみんなが守り、気持ちの良い修学旅行になりました。2日間でさらに友だちとの交流が深まり、すてきな思い出になったと思います。まるで一つの学校の子どもたちのように感じるほどでした。その後の陸上記録会でも3校は観覧席が隣り合わせで、再会を喜んでいました。これからも、様々な機会に交流ができていくといいと思います。



修学旅行で交流が深まりました

最高の笑顔を体育館で咲かそう 鳥羽ミニバスケットボールクラブ

鳥羽ミニバスケットボールクラブは、市内の小学校二年生〜六年生の男女25人で練習しており、体育館は子どもたちの元気な声や熱気で溢れています。

練習以外にも、お楽しみ会や食事会、県外へのスポーツ交流など、親子で楽しめるイベントも盛りだくさんの楽しいチームです。

バスケットには、投げる・走る・跳ぶの運動三大要素が含まれ、育成年代でしか育まれない運動神経の発達に大きな影響を与えてくれます。

この他、チームスポーツならではのコミュニケーション能力やチームワークなどが身に付きますが、子どもたちの日々の成長を身近に感じられることが何よりも楽しい時間でしょう。

そんな鳥羽ミニでは、新しい仲間を大募集中です。

新しいことにチャレンジしたい、身体を動かすことが大好き、友達とたくさん時間を過ごしたいみんな、子どもたちと一緒にかけがえない時間を過ごしたい親御さん、きっかけは何でもOKですので、体験・見学などぜひ一度体育館へ遊びにきてください。



●練習日：水曜18時30分～、土曜13時30分～、日曜9時～
※まずは週1回からでOK

●連絡先：代表 宮本益仁 / miyamasu303@gmail.com

Facebook 鳥羽ミニバスケットボールクラブ 検索

山下委員
お疲れさ
ました！



山下 隆広さん

～教育委員の交代～

平成30年12月23日をもって、山下隆広さんが教育委員を退任されました。

山下さんは、平成22年12月に教育委員に就任されて以来、8年間にわたり委員や教育委員長として鳥羽市の教育を推進していただきました。長い間、ありがとうございました。

また、山下さんの後任として、12月24日から中村和久さん(答志町)が教育委員に就任されました。鳥羽市の教育発展のためにどうぞよろしくお願いいたします。

中村委員
よろしくお願
いします！



中村 和久さん

菅島小学校 廣川清治教頭が 第50回中日教育賞を受賞



廣川 清治さん

中部9県の小中学校や高校、社会教育などの現場で教育に関わり、第一線で優れた業績を挙げられた個人、団体に贈られる「第50回中日教育賞」を菅島小学校の廣川清治教頭が受賞されました。

廣川さんは、島外の人たちと交流する機会が少ない島のこどもたちのコミュニケーション力の向上を狙い、島で育った児童がガイドとして島の魅力を伝える「島っ子ガイド」を平成20年に菅島小学校でスタートさせ、後に赴任した神島小学校でも同様にガイドをスタートさせ、現在も継続して取り組まれていることが評価されたものです。

前教育長 齋藤陽二さんが 地方教育行政功労者表彰を受賞



齋藤 陽二さん

地方教育行政において、その功労が顕著な教育委員会の委員、教育長を文部科学大臣が表彰し、その功に報いるとともに、地方教育行政の発展に資することを目的として行われる「平成30年度地方教育行政功労者表彰」を前教育長の齋藤陽二さんが受賞されました。

齋藤さんは、教諭、校長として市内の小中学校で勤務されました。平成17年7月に教育委員及び教育長に就任され、その後12年間に渡り鳥羽市の教育を牽引され、校舎の新築・耐震化や空調化に取り組んでこられました。今回の受賞はその功績が評価されたものです。

ご意見ご要望をお寄せ下さい